

# 達成不可能と思える高い目標設定がなぜ良い目標なのか? 《行政課題解決セミナー》

一目標管理が世の中に浸透するにつれて、目標設定は、達成できるように考えてしまいがちですが、その大きな落とし穴を明らかにするとともに逆に高い目標設定がどういう風に私たちにモチベーションと成長の機会をもたらすかを明らかにして行きます。ー(講師メッセージより)

## 《ワークショップレポート》

今回の行政課題は「考える子どもを育てる環境教育」。これからの予測困難な時代を生きる子どもたちには、物事を論理的に考えて、課題を発見し解決する、「考える力」が必要です。埼玉県庁の加藤さんは、環境教育を通して「考える」ことを学ぶ、新しい体験メニュー作りに挑戦しています。

加藤さんには、体験メニューを全県に、ゆくゆくは全国に広めていきたいという思いがあります。今、体験メニューを現場で実施している段階ですが、現場から「人手が足りない」と言われてしまい、困っていました。

ワークショップの冒頭、岸良さんは会場に質問を投げかけました。

加藤さんの悩みは「新しいことをやると、現場が抵抗する」ということです。皆さん、現場が抵抗しているというのは本当でしょうか?

さらに、岸良さんは続けます。

本当に抵抗している人は、「やらない」と言います。抵抗と決めつけていることのほとんどは、懸念を言っているだけ。懸念とは、やることを前提にして考えるから出てくる。やることを前提に考えている人を「抵抗勢力」としてはいけぬ。仲間である。「抵抗勢力」が「応援勢力」になるのはどうでしょうか?

ワークショップが始まりました。まず「懸念事項は何でしょうか?」と質問し、懸念事項を洗い出します。続いて「懸念が発生している原因は何ですか?」と質問し、理由を聞きます。

続いて「それを解消するうまい方法ありませんか?」と質問し、解決策を出します。次に「メリットはなんですか?」と質問し、解決策によるメリットを出します。最後に、解決策を読み上げ「やろうといえはできますか?」、メリットを読み上げ「そういうメリットがあれば、やる価値ありますか?」と質問し、解決策が実行可能であるかと、そのメリットを確認します。

この方法は「気因解利」と言い、抵抗にあったときに即座に使える公式です。と岸良さんの解説。

体験メニューを導入する現場の懸念と、懸念が発生する理由、解消策とそのメリットが付箋でまとめられました。思わず、「何で気づかなかったんだろう」とコメントする加藤さん。それに対し岸良さんは

それは公式を持っていなかったから。算数と同じで、公式を持っていれば圧倒的に有利。とコメント。

最後に、岸良さんから「達成不可能と思える高い目標設定がなぜ良い目標なのか?」の講義があり、セミナーが締めくくられました。

## 《今回の学び》

「懸念とは、やることを前提にして考えるから出てくる。懸念を出す人は仲間である。」という岸良さんの教で、自分の中の前提が完全に変わってしまった。高い目標設定で志の高い支援者を引き寄せ、気因解利の公式で懸念をメリットに変えてしまえば、達成不可能な目標はないのではと思えるほどでした。

## 《他の発表》

- ◆TOC理論に沿って待機児童問題を考えてみた 東広島市
- ◆京都きものルネッサンス
- ◆産廃業者から環境産業へのステージアップ支援 埼玉県



講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。  
全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC (Theory Of Constraint:制約理論) をあらゆる産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

全体最適の行政マネジメント研究会について

- ・ 全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。
- ・ 次回のセミナーは、2020年6月に開催予定(参加費無料)。詳細が決まり次第、当会のWEBサイトで公開します。